

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和4年度取組結果】

団体名	皿倉登山鉄道株式会社
-----	------------

所管課	産業経済局 観光課
-----	-----------

団体に対するミッション
本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の集客など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

行財政改革大綱における見直し内容
今後も、平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努める。

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	着実な経営改善に取り組む。
-------------	---------------

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H30	R1	R2	R3	R4		R5	R6
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
当期純利益	24,719 千円	2,849 千円	4,534 千円	△4,101 千円	当期純利益の確保	10,997 千円	黒字	黒字
純資産	87,565 千円	90,413 千円	94,947 千円	90,845 千円	黒字	101,842 千円	増加	増加
長期借入金	56,300 千円	46,100 千円	46,100 千円	41,000 千円	市借入金の確実な返済	35,900 千円	市借入金の確実な返済	市借入金の確実な返済

ミッションの遂行状況の評価（令和4年度）

団体における評価	本年度は概ね当初運行計画に沿った運行のもと、夜間運行の通年実施や「日本新三大夜景都市」第1位認定に加え、市が実施した「お出かけ応援プレミアムサマー」事業の効果などから、大幅な集客増とともに、当期純損益の黒字化を達成できた。	市の評価	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による長期運休がなく、概ね運行計画どおりに運行できた。そのなかで、夜間運行の通年実施や市の需要喚起策等に取り組んだ結果、収支は黒字となった。これは、当団体の積極的な取り組みの結果であると評価できる。
今後の課題及び見直し内容（案）	「日本新三大夜景都市」第1位の効果や来訪外国人の増加が期待できるものの、コロナ禍のような市の観光施策による支援はない状況においても、経営が黒字化する集客を行うこと。	団体への改善指導内容（案）	収支の黒字を前提に、更なる増収・増客対策及び皿倉山のPRについて、市や関係団体と一体となって取り組むことを求める。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努めている。令和3年度は、10年ぶりの赤字であったが、夜間運行の通年実施や本市、関係団体との共同事業等を実施し増収対策に努め、収支は黒字となった。	

ミッションに基づく具体的取組み（令和4年度）

目的（目指す状態）		活動計画（どうやって目的を達成するか）									
<p>着実な経営改善に取り組む。</p> <p>①黒字経営の確保 ②純資産の増 ③市借入金の返済</p>		<p>①②夜間営業日数の拡大や魅力あるイベントの開催、効率かつ効果的なPR活動の実施等により、ケーブルカー・スロープカーの利用拡大を図る。</p> <p>③老朽化の進むケーブルカーやスロープカー、山頂施設等の改修や補修など、皿倉山頂への集客促進に向けた整備を継続的に実施する。 また、日常的な現場巡視による実情の把握と業務マニュアルの実践遵守を徹底する。</p>									
1	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
	① 当期純利益	4,534 千円	△4,101 千円	当期純利益の確保	10,997 千円	① ケーブルカー利用者数	187,100 人	224,367 人	200,000 人	291,446 人	
	② 純資産	94,947 千円	90,845 千円	黒字	101,842 千円	② 借入金返済額	5,100 千円	5,100 千円	5,100 千円	5,100 千円	
	③ 長期借入金	46,100 千円	41,000 千円	市借入金の確実な返済	35,900 千円	③ ケーブルカー・スロープカー無事故運行	事故発生件数ゼロ	事故発生件数ゼロ	事故発生件数ゼロ	事故発生件数ゼロ	